

群馬県立吾妻特別支援学校

## 特別支援教育の支援センターとして



## 皆さんを応援します!

お申込み・問合せは、専門アドバイザー (長谷川健之) までお願いします。

【相談支援室 (小中学部校舎)】

電話番号 0279-51-1111 FAX 番号 0279-75-3701

メールアドレス (アドバイザー専用) [agatoku-snes01@edu-g.gsn.ed.jp](mailto:agatoku-snes01@edu-g.gsn.ed.jp)

住 所 〒377-0423 群馬県吾妻郡中之条町伊勢町 1035-1

※8月21日 吾妻地区コーディネーター研修会が行われました

講 義 「園・通常学級における特別支援教育」

講 師 群馬大学共同教育学部客員教授 峰岸 幸弘 先生

研究協議

「園・担任の先生への特別支援教育に関するサポートのあり方～峰岸先生の講義を受けて～」

## 参加者の声

### 1 「講義」について

#### ○ 今回学んだこと

- ・ LDの児童への色々な指導があるのを知ることができてよかった。
- ・ 今日教えて頂いた色々な指導方法を試せるようにしたい。
- ・ 障害があることを認め、追いこまないように支援していくことが大切だということ。
- ・ 障害の重なりを見きわめ、適切な対応を低学年のうちからしていくことが重要。
- ・ 漢字練習を4回までというのは納得する点。
- ・ チャンクや漢字指導、語いの広げ方。
- ・ 早期発見や早期支援の取り組みが大事。
- ・ 小学1年生の段階で、ここまでできていないとLDの可能性があると、具体的な基準がわかってよかった。
- ・ 1分で55文字読めるかの検査はすぐにも使えると思う。
- ・ LD、特に読字障害における特性、及び支援が参考になった。(鳥取大学のモデルなど)
- ・ 早期発見が大事だということ、幼児期にできることを考えていきたい。
- ・ 普通の遊びからも気付けることはあるだろうと思い、勉強していきたいと思った。

- ・ 言葉、言語の獲得において、絵本の読み聞かせの重要性を改めて感じた。
- ・ 具体的な言葉遊びを、早速保育の中で活用していきたいと思った。
- ・ LDについて、とてもくわしく具体的なことを学ぶことが出来、実践にすぐ活かしていきたい。
- ・ 小学1年生の早期発見、早期支援について、まずすぐ実践していきたい。
- ・ ことばの力をつける支援の仕方については、情報提供していきたい。
- ・ 鳥取大方式はすばらしいと思った。現場で子どものためにしっかり生かせるものを、実際に行っているということがすばらしいと思った。
- ・ LDの診断(判断)は難しいと感じていたが、鳥取大学のRTIモデルやしりとりができるか等、取り組みやすく分かりやすい方法があると知れてよかった。
- ・ 早期発見、読みのスピードを上げる指導等、重要なポイントをおさえられた。
- ・ 本人の努力で片づけるのではなく、どうすればできるようになるのか、児童・生徒と一緒に考え(模索し)ていきたい。
- ・ LDに関して改めて知ることが多く、理解を深めることができた。
- ・ クラス経営、子どもたちが認め合う学級・・・一番難しいとも感じる。
- ・ LDの子どもへの具体的な支援。
- ・ 定型発達の子にもDAISYを使うという発想。
- ・ 神山先生：子どもの本音、困り間、感情を、日頃の教師間の交流から見とれるように情報集
- ・ チャンクできるようなことば遊びをたくさん取り入れる。
- ・ 支援者となる先生方、保護者にすぐお伝えできることが多かった。
- ・ LDに関することを詳しく聞くことができて良かった。
- ・ 「しりとり」、1分「50音」すぐに使えると思った。
- ・ 読むこと、書くこと、算数のこと、具体的に知ることができた。

○ 新たな疑問・課題

- ・ 国語や算数では個別の指導が難しいため、今日学んだことをどのようにいかしたら良いかが課題だと感じた。
- ・ 現在対応する児童の様子がケースに当てはまることが多く、対応策を立てていくことが課題。
- ・ 保護者の協力や理解のすすめ方。学校外からの助言が協力や理解をすすめていけると思った。
- ・ 中学生の指導でできることは何か？
- ・ LDの診断をしてもらえる病院がわからなくて困っている。
- ・ 通常学級でできる支援、通級でできる支援の限界がある。
- ・ 診断の出ない(通級適の判断にならない)子の通常学級内における無理のない指導をどうしたら良いか。
- ・ 特別支援の子の学習方法かもしれないが、通常学級の中でも特別配慮が必要な子が多い現状である中、通級の先生だけでなく学級担任の先生の学習方法としても、とても役に立つ内容の話だと思った。指導にご苦労されているかと思うが、入学を期待し、学校に行くことを楽しみにしていた子ども達が学習でつまずいて学校が嫌になってしまうということが多く聞かれることが少しでも減っていくといいと思う。

- ・ 本校では数名学習障害の診断を受けている児童がいるが、医療へのつなぎ方、または医療機関など課題となっている。また、保護者の伝え方等も課題。
- ・ LDは通級を利用してもらいながら通常級での指導になるので、その子に必要な指導をどう組んでいくのかが、とてもむずかしいと思った。
- ・ 相談員として、現場の先生方が抵抗なくすぐに取り入れられるような伝え方、教材の提案等工夫していきたい。
- ・ 英語科におけるLD生徒への効果的支援を考えていただけるとありがたい。
- ・ 高校入試での合理的配慮。基準がわからない。(実際に配慮が受けられないことも)
- ・ 群馬県では、入試の配慮の実績は、拡大と時間延長、別室受験でルビ振りは許可されなかったとのことなので、実際に入試での合理的配慮の話を知りたい。
- ・ 通級の先生との連携
- ・ 担任の先生への情報提供をしていくこと。(紙面)

## 2 「研究協議」について

### ○ 今回学んだこと・気づき

- ・ LDの診断を出してくれる病院があることを知れてよかった。
- ・ 中学校は受験があるので、LDの生徒にとっては問題を読むことができないのは困るので、そのことの支援も必要だと思った。
- ・ 小中幼の先生方の個々の課題を拝聴しながら、早期に的確な判断が重要だと思った。
- ・ “子どもを壊さない”について、あらためて学び感じました。
- ・ 他の学校での課題を聞いてよかった。
- ・ ルビ付き教科書や板書の写真撮影など、高学年になると周囲の目が気になってしまう子が多い。→まわりの子が同じクラスメイトとして受け入れられるような学級経営が大事。(個別最適より協働的な学びが大事)
- ・ 峰岸先生の「一人だけの学びにはしない」という言葉は、本当にその通りだと思った。担任の先生たちと協力して、そのようなクラスが増えていくといいなと強く感じた。
- ・ さすが経験のあるコーディネーターの先生方だと思った。
- ・ いろいろな有効な手立てがあると思うが、それをどう納得して活用していただくか、難しいところもあるなと思った。
- ・ ICTの活用などの合理的配慮に抵抗のある子が受け入れるために、その子1人のものとしてではなく、学級全体の学びとして考えること、共同的な学びを重視することと考える。(目からウロコでした)
- ・ LD等の児童生徒への合理的配慮をすべての児童生徒へのユニバーサルデザイン、協働的な学びにしていけると良いと感じた。
- ・ 特支学級や通級での支援を通常学級で行うためには、まずクラス経営から。そのために職員の協力体制を。
- ・ 学級経営、授業改善が大切ということ。
- ・ 早期発見は大切だが、保護者とのつながりが大切。

- ・ 焦らずに子どもと保護者の気持ちを大切にすること。
- ・ （子どもから？）先生に言ってくれることが大切。
- ・ 子どもを壊さない。
- ・ 具体的な合理的配慮の手段の提供。
- ・ その子に必要な配慮を、クラスメイトが応援してくれるような学級経営。

○ 新たな疑問・課題

- ・ コーディネーターとして担任の先生方に情報を提供したり、具体的な支援の方法などをもっと伝えたりしていかないといけないと思った。
- ・ 全教職員に周知することが課題。
- ・ 幼小中の連携を同じものさしでできると、発見の遅れを防ぎ保護者の理解をすすめていくと感じたため、連携が課題かと思う。
- ・ 学業不振かLDかの判断が難しい。
- ・ キャリアのある先生に意識をもっといただく難しさは、本校も課題。
- ・ LDの傾向があっても、医師の診断がないと通級等を受けられない点。
- ・ 中学生だと周りの目を気にしてしまう点。
- ・ 高校入試で、合理的配慮を受けるためにはどのようにすれば（基準も含めて）。
- ・ LDの子どもに対する実際の支援の例を知りたい。
- ・ インクルーシブと学級経営をどう実現するか。理想と現実
- ・ LDらしき生徒はどの医療機関につなげれば良いか？
- ・ 各教科でできる合理的配慮について
- ・ CNとして、担任・職員への情報提供。

3 今回のテーマ以外で、今後コーディネーターとして学びたいこと・研修したいこと

- ・ 外部機関との連携について
- ・ 障害を持った生徒への支援の仕方（外部機関）
- ・ 不登校（ひきこもり）の子への支援について
- ・ 具体的な事例を検討、協議することが出来たらうれしい。（難しいかもしれないが）
- ・ 自立活動の進め方や実践例（特支学級、通級）
- ・ 放課後等デイサービスについて。

4 その他

- ・ とても勉強になりました。ありがとうございました。（多数）
- ・ たくさんのことを学ぶことができた。少しでも生かしていきたいと思う。
- ・ 校内で伝えたい。
- ・ 具体的で大変わかりやすいお話だった。11月の通級の研修会でまたお話を聞けるのを楽しみにしています。
- ・ 毎回いろいろ考えていただいてとても参考になります。よろしくお願いします。